

1月2日  
オープン!

特集 九十九島動植物園 森きらら

# 新ペンギン館に行こう!

いきいきと泳ぐ、潜る、歩き回る…  
ペンギンの姿をあらゆる角度から見  
ることができる施設「新ペンギン館」  
が九十九島動植物園森きららに登場。  
1月2日(木)から一般公開を始めます。  
今回の特集では、同園で暮らすペン  
ギンたちや、この施設の見どころに  
ついてお知らせします。

## ★エサやりデッキ

エサやり体験ができるデッキを設置して  
います。また、水槽をぐるりと囲むアク  
リル板越しに、子どもの目の高さからで  
もじっくりとペンギンを観察できます。

## ★日本最大! 80㎡の天井水槽

1階天井がアクリル板になっているので、  
ペンギンが泳ぐ姿を見上げることができ  
ます(実際に1階から見た様子は、6ペー  
ジ写真を参照)。

## 九十九島動植物園と ペンギンの話

動物園や水族館の人気者、ペンギン。2本足でよちよち歩く姿に癒やされる、という人も多いと思います。世界には18種類のペンギンが存在すると言われていますが、九十九島動植物園森きららで会えるのは「フンボルトペンギン」という種類です。南米のチリ、ペルーの温かい沿岸に分布し、日本の気候でも飼いやすく、国内では約2千羽が飼育されています。近年、生息地では餌となる魚の乱獲や異常気象により激減し、絶滅が心配されています。このため、動物園や水族館にはフンボルトペンギンを保護し、繁殖させる役割も期待されています。

同園は昭和44年にペンギンを1羽導入し、飼育を始めました。以来、全国の動物園や水族館と協力しながら、希少なペンギンの繁殖にも取り組んでいます。

一生を同じつがいでも過ごす習性があるペンギンにとって、相手を探すことはとても重要です。ことし10月には愛媛県立とべ動物園や、高知県の桂浜水族館から3羽が来園し、群れに加わりました。1月2日(木)からは2歳から13歳までの22羽に会えるようになります。

同園では「行ってみたい、また来たい」と思ってもらえる動物園づくりを目指し、来園者のニーズに合った施設の整備を進めています。昨年に新しいペンギン館の建設が始まり、動物との触れ合いや、ありのままの生態を観察できる行動展示を取り入れたものになっています。ことし9月と11月に、2回に分けてペンギンの引っ越しが行われました。環境が変化して餌を食べなくなることもありましたが、飼育員の努力もあって、今では新居に慣れた様子です。新ペンギン館は1月2日(木)から一般公開を始めます。



新ペンギン館の1階展示室から見た深さ4mの深水槽。まるで海底にいるような感覚が味わえます。ここでは、海中を数百メートルも潜ることができると言われる、ペンギンの高い能力を垣間見ることができます。

### 新ペンギン館の概要

構造 鉄筋コンクリート3階建て  
 建築面積 573.5平方メートル  
 延床面積 833.8平方メートル  
 水槽容量 231トン  
 主な設備 天井水槽、深水槽、観覧通路、保護繁殖施設



1階展示室からは天井水槽と深さ4mの深水槽を見ることができます2天井水槽から見た「空飛ぶペンギン」3潜水するペンギンを真横から見ることができます4泳ぎ疲れるとスロープから陸に上がります

新ペンギン館には、ペンギンのありのままの姿を見てもらうための工夫がたくさんあります。水槽の水面の広さは旧ペンギン舎の約2・5倍。屋根がなく開放的な設計となっています。一番の見どころは、ペンギンの飼育施設としては日本最大を誇る天井水槽で、1階展示室天井のほぼ全面、約80平方メートルがアクリル板でできています。真下からペンギンを観察できるので、晴れた日にはペンギンが空を飛んでいるような光景に出会えます。

このほかにも、ペンギンが真上を歩く「極浅水槽」など、ペンギンの行動をいろんな角度から観察できる施設となっています。設計から携わったペンギン担当の飼育員、郷司真莉子さんは「子どもと一緒に来園される方が多いと思うので、子どもの目の高さで、大人がくつろげる空間を意識しました」と話します。ペンギンは海水でなくても飼育できるので、井戸のくみ上げ水を使用。特に気を付けているのは水槽の掃除で、3日に1回、中に入って藻などを取り除きます。郷司さんは、そのために潜水士の資格を取得したのだとか。水の透明度と水質を保つ要領は、たくさんのお水を管理している九十九島水族館「海きらら」のスタッフから学んだそうです。



新ペンギン館の外観。旧ペンギン舎の隣です

## 工夫がいっぱい！ 新ペンギン館の見どころ



(左)サルの飼育を担当する青木俊樹さん(右上)バッグに入れた人工哺育中のリスザルの赤ちゃん(右下)シロテテナガザルの赤ちゃん。性別が判明したので、名前を募集しました。発表は12月下旬の予定です



ペンギンの話をしてくれた郷司真莉子さん。ペンギンを担当してことしで4年目。1日2回、餌のアジを与えています



森きららの人気者「ピィちゃん」は5歳のメス。人工育雛のため、デリケートなほかのペンギンに比べて人なつこい性格です

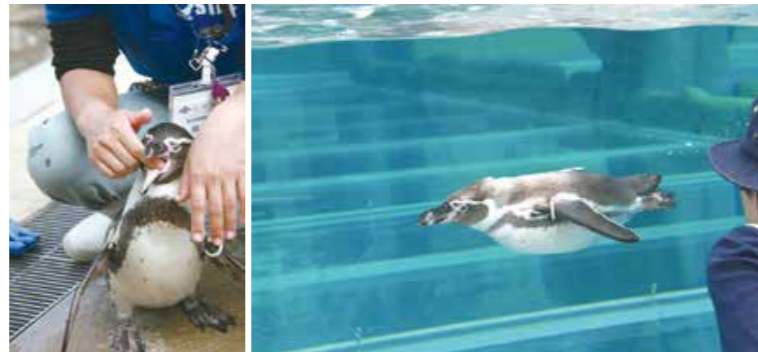
# 新しい仲間も登場。 動物たちに会いに訪れてみませんか！

## 3月、森きららに アミメキリンが来園します



大分県の九州自然動物公園からやって来ます。2歳のオスで名前は「ハヤト」です。みんなも会いに来てね！

**旧ペンギン舎にも新しい仲間が登場**  
新ペンギン館ができて空き家になった旧ペンギン舎にも、新しい仲間が大阪の動物園からやってきます。ヒントは、川にダムを作る動物です。お楽しみに！



(左)ペンギンのくちばしの中を見せてもらう。魚を捕まえたときに滑らないよう、裏側にはトゲが生えています(右)体にびっしりと生えた羽毛が空気を閉じ込めているので、水中でも皮ふは濡れないようになっています

## 飼育員と ペンギンの話

同園では新ペンギン館のオープンに向けて、ペンギンの寝室や室内飼育施設を案内するバックカヤーツアー、ペンギンと触れ合えるイベントなどを飼育員が企画しています。現在、散歩用の通路を使って「ペンギンの散歩」を披露できるよう、特訓を予定しています。散歩は、足の裏にできるマメの予防にも良いのだそうです。

22羽のペンギンには、全て名前が付いていて、それぞれに性格の違いや個性があります。外見はほぼ同じですが、ペンギンの翼に付けられたバンドの色で見分けることができます。多くは園内で繁殖して生まれ、中には飼育員の手でひなから育てた個体もいます。

飼育員の郷司さんは、ペンギンを担当してからこれまでに4羽をひなから育てました。

「1年目は初めてのマンゴゴばかりで、うまくいかないこともありました。ペンギンは哺乳類と違って、コミュニケーションが取りにくい生き物です。人工育雛(ひなを育てること)は難しいですね。餌のと

きには近くに寄れるので、ゆっくり時間をかけて与えるようにしていました」

## 命をつなぎ、育てる 動植物園の役割

動植物園には生き物を展示して来園者の皆さんに見せるだけでなく、「命をつなぐ」「種を保存する」という大事な役割があります。これまでも同園では、ツシマヤマメコなど希少な生き物の保護・繁殖を手掛けてきました。昨年はシロテナガザルの赤ちゃんが誕生。ことしはリスザルの赤ちゃんが生まれ、飼育員が交代で人工哺育を行っています。

同園では、ペンギンの魅力を伝えるだけでなく、種の保存という役割の担い手として、ペンギンの繁殖にも力を入れて取り組んでいます。

新ペンギン館は、1月2日(木)にオープンします。皆さんもペンギンたちに会いに、森きららへ出かけてみませんか。

(取材日) 10月20日

問 九十九島動植物園

☎ 28・0011